

第94回例会

日本語学習者の日本語学習フロー経験 —韓国人就労者の事例から—

■ 話題提供者 ■

朴ウギョンさん(九州大学大学院 地球社会統合科学府)

■ 日時 ■

2023年8月26日(土) 14:00~16:00

オンライン(Zoom)開催

※参加費無料 要事前申込

お申込は[こちら](#)から

※非会員の方もご参加になれます。



「喜び、創造、生活への深い没入過程など人間の体験の能動的側面」をチクセントミハイ(1990/1996)はフロー(Flow)と呼びました。「フローは自己目的的で全人的に一つの行為に没入しているときに感じる包括的感觉であり、深い楽しさや喜びを伴う経験を生む」(今村・浅川、2003)とされます。就労のために来日した韓国人たちは日本語学習においてどのようなフローを経験しているのでしょうか。

「朝、お家を出る瞬間から、夜、戻る時までアンテナが立っている感覚がありました。」「もう日本語で話している感覚がありません。」など、彼らの語る日本語学習経験は主観的なものでありながら、学習者として共感できるものでもあります。多様な価値観、多様な動機づけで来日し就労している外国人の日本語学習を理解するために、関心・集中・喜びが成長へつながることを説明するフローの観点からみていきます。

個別の経験の中に共通する本質的な客観を求める現象学的アプローチをもって、15人の韓国人就労者の事例に迫ります。日本語学習経験をどのように記述するか、またその記述を読んだ日本語教師の意識はどのように変わる可能性があるかについて話し合う場にしたいです。

文献

チクセントミハイ, M. 今村弘明(訳)(1996). 『フロー体験—喜びの現象学—』, 世界思想社, p. vii
(Csikszentmihalyi, M. (1990). FLOW: The psychology of optimal experience.)
今村浩明・浅川希洋志. (2003). 『フロー理論の展開』, 世界思想社, p. i